

NETISに登録

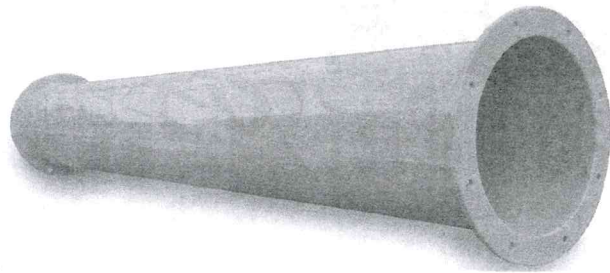
新規ニーズ開拓注力

鋼管の樹脂コーティングなどを手掛ける流浸工業（本社＝大阪府堺市、大久保秀俊社長）はこのほど、自社開発製品である「内外面PVCコーティング軽量鋼管」がNETIS（国土交通省新技術情報提供システム）に登録された。今回のNETIS登録を契機に、今後は既存分野への拡販に留まらず新規ニーズを開拓できるように注力していく。

流浸工業

流浸工業が製造・販売する内外面PVCコーティング軽量鋼管は、板厚1・6ミリの鋼管に板厚6ミリの鉄板フランジを両側に溶接し、パイプ流動浸漬法により全面PVC（塩化ビニル）コーティングを施したリユース鋼管。同社の「リユース鋼管」

は、栗本鉄工所の「クリモト臭突管」として販売されている。内外面PVCコーティング軽量鋼管は、配管用炭素鋼鋼管に比べ重量が約5分の1程度と軽量で、現場施工にメリットがある。内外面にPVCコーティングを施すことで、臭突管などで発生する硫化水



リユース鋼管

素による腐食を防ぐことができる。耐候性にも優れている樹脂のため、屋外での使用も可能なことも特長として挙げられる。リユース鋼管は、クリモト臭突管や固定金具付き

突管は、東京や名古屋、大阪の大型ビルやホテル、病院、学校、マンションなど多くの採用実績がある。今回、NETISに登録されたことを契機に、今後は既存分野への拡販に留まらず新規ニーズを開拓できるように注力していく。

サイズラインアップは外径150Aから600Aまでとなっており、550A以上は母管の板厚が2・3ミリの各種継手、割フランジなどにも対応する。特注対応も行っており、角丸管や固定金具付き

管なども製作が可能である。

臭突管は、主に厨房除外装置や排水処理装置で発生した硫化水素などを含む腐食性のある気体を排気するための配管。近年、同系統の配管腐食による問題が多く発生している。リユース鋼管は、クリモト臭突管は硫化水素による腐食を防ぐことができる。